

第1回理念・事業展開部会での検討状況

第1回理念・事業展開部会

■日時：平成28年7月14日（木） 14:00～16:00

■場所：大阪府庁 第3委員会室

■議事 (1) 万博について

※万博についての基礎知識を共有

(万博の歴史、国際博覧会条約、社会と博覧会の変換、WHOにおける健康の定義等)

(2) 基本理念、名称、テーマ、サブテーマ等について

■概要

(1) 基本理念・名称

○必要な視点

- ・WHO憲章では、「健康」は病気がないだけでなく肉体・精神・社会において包括的に良好な状態を健康と定義している
- ・「健康」の概念範囲をあまり広げずに身近なものとするほうよいのでは。
- ・日本が世界に「高齢社会の姿」と、そこで発生する「様々な問題や不安を解決する方法」を示していくことが、最も早く高齢化する国の責任として必要な視点。
- ・「死ねない時代」が到来する。問題意識として、そうした時代に、「健康や長寿とはどういう意味があるのか」を考えることが必要。
- ・共感を生むためには、「健康であり、長寿になって、どういふことがあるのか」ということを示すようなメッセージが必要。

○2025年をどうとらえるのか

- ・2025年は、命の代替えがきくようになり、そういうことに対する反省が起こる時期。「命の大切さを実感する」ということにもう一度戻らないといけない時代となる。
- ・AIのような自動診断が進む中で、「人間的なもの」というのは非常に大事になってくる。「非常に進んだテクノロジー」と「昔ながらの人間的なもの」とが大きなテーマになる。
- ・ターゲットイヤーをいつごろに置くのかの共有化が必要。
- ・ターゲットイヤーにおいては、「地球の問題」と「人間の幸せ」との整合性をどのように図るのか、「デジタル社会化」と「アナログ」とどのように融合させるのかなどがテーマとなる。

○名称

- ・「名称を変えるべき」との委員意見は特になし。
- ※「日本万博ではなく、関西の万博だときちんと言わないといけないのではないか」という声もあるとの報告もあった。

(2) テーマ・サブテーマ

○テーマ

- ・東アジアでも高齢化が進む中、「世界の国にとって非常に気にするテーマ」。
- ・4つの観点からみて、「健康」は適切なテーマ。

① 人類の共通の課題である

- ②あらゆる国にとって解決策を提案できるものである
- ③大阪・日本にとって優位性がある
- ④国の全体的な政策、健康、成長戦略にあっている

(テーマの英訳)

- ・英語でどうするのかというのが極めて重要。英語・日本語の両方を考えていかないといけない。
- ・英文にしたときはシンプルで、単純なものの方がいい。
- ・最近、Wellbeing という言葉が注目されている。

○サブテーマ

- ・4つのサブテーマがすべてを網羅しているところがよい。
- ・全体としてのバランスはよく取れている。
- ・「安定した生活の実現」は、非常に漠然としている。具体的なものを入れられないか。
- ・市町村におけるまちづくりの将来を示唆するような内容としてほしい。
- ・戦争などの分野まで広げてしまうと、逆に、「健康」という焦点がぼやけてしまう。
- ・海外諸国との誘致活動の際には、わかりやすいサブテーマが必要。

(3) 事業展開等について

○事業展開

- ・誰もが健康に生活できる街づくりを、最新技術を使って実際に作り体験する会場に。
- ・「未来社会に向けた行動を呼びかける」ということは、非常に素晴らしいメッセージだ。
- ・子どもから大人までが様々な体験をできることが喜ばれるものを。お越しになられる方々が「楽しんでいただくという目線」が大切。
- ・若者たちが「自分らの未来は明るい」といったイメージを持ち、「そうした未来を社会的に実装・実験する場が万博にある」ということを見せる博覧会に。
- ・「今、日本にあるモデル」を出すことにも大きな価値がある。
- ・日本が世界に誇れることは、「世界一安心な国」であり、テクノロジーで解決しようとしている。そうしたことをアピールすればいい。

○開催前の活動

- ・企業や個人が「自分もアイデアを出したい」というものをめざす。企業や市民から提案がどんどん出てきて、それをプロジェクト化していけば、世界にも稀ないい博覧会になる。
- ・過去の博覧会の既成概念にとらわれずに、いろんな側面を出すことで、十分にリターンを得られるいい博覧会を開発できる。

○広域展開等

- ・関西全域での連携を盛り込むことは大事な視点。
- ・広域的な要素を入れることで、府内市町村や関西を巻き込んでいくような形に。
- ・合理的かつ機能的で、生産性の高いイベントを心がけるべき。

■次回部会の予定

第2回部会（8月18日）は、事業展開、開催前活動、理念の継承等の意見交換を行う予定